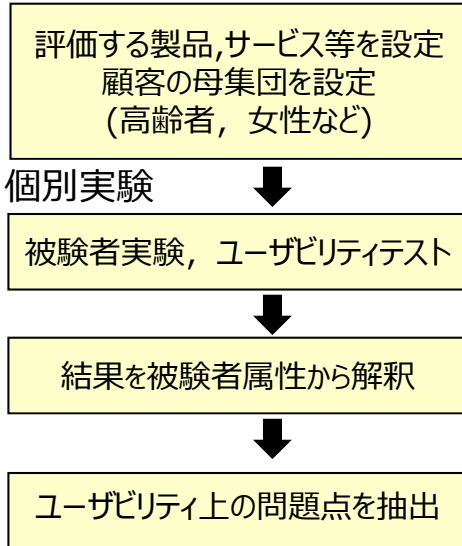


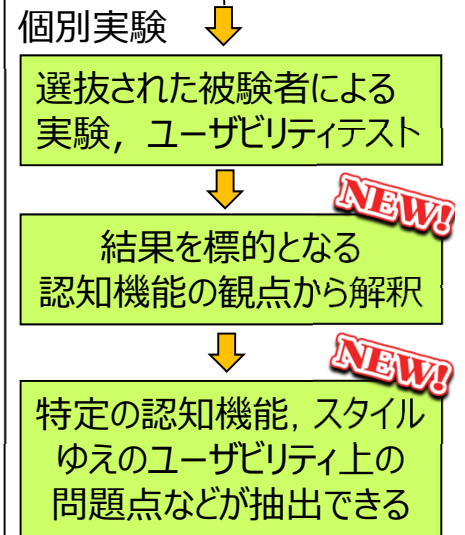
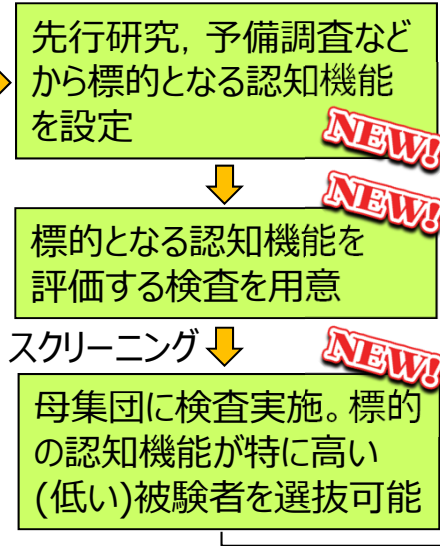


# 少サンプル数で有用な被験者実験を デザインする手法 ～認知機能で選ぶ～

## 従来の手法



## 認知機能スクリーニング法

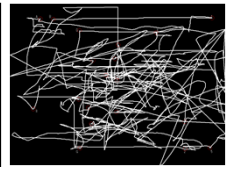
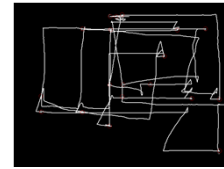
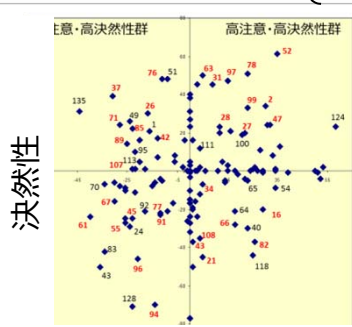


## 被験者を認知機能に基づいて個別実験の前にスクリーニングする

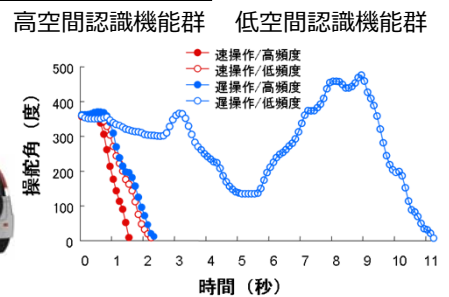
### 研究例

作業記憶容量, 認知スタイル, 注意特性など

自動車運転操作=空間認知+身体動作と外部座標把握



左右反転操作課題:  
身体操作と動作結果が逆対応



作業記憶容量

高コストのシミュレータ・屋外実験で特徴的な行動を示す被験者だけを抽出可能に

- 実運転における右折時の同調的不安全行動とドライバー個人特性: 認知機能および性格特性から (2015)
- 長時間運転での疲労蓄積への影響要因の分析とドライバーの疲労蓄積タイプ分類 (2013)
- Kawahara, J. et al. (2013) Jpn. J. of Psych. Sci., 32, 14-28. [日本基礎心理学会優秀論文賞受賞]
- 加齢による認知機能の低下と機器・環境ユーザビリティ (2008)

かわはらじゅんいちろう

北海道大学大学院文学研究科 心理システム科学講座 特任准教授 河原純一郎  
<http://cogpsy.let.hokudai.ac.jp/~f209/index.html>

